

第4学年 体育科 つなげてアタック ～キャッチバレーボール～

学習指導者 藤井 康裕

見通し 1 学習課題を設定する。[情]【学びの貯金ボード】

「チーム力を発揮してリーグ戦を勝ち抜こう」と単元のゴールを確認し、これまでに見付けた攻め方を学びの貯金ボードで振り返ることで意欲的に課題解決に向かえるようにした。本時は、得点が決まったときのボールが落下する位置について示した動画を見る場を設け、「相手を取りにくい後ろの方にアタックを決めればいい」「コートのにぎりぎりをねらって打つと決まりやすい」などと予想しながら課題を設定できるようにした。

コートの奥の方をねらい打てば、よりたくさん得点できると思います。

課題とゲームの得点やデータ、写真等を記すことでゴールに近づいていることが分かるようにすることで、「早くゲームをして作戦を試してみたい」と意欲を高めている姿が見られた。

【価値付け】学習課題の解決に向けて意欲を高めている姿に対して、「たくさん得点できるアタックコースを、チームで協力して見付けたいね」などと共感した。



どこにアタックを打てば、たくさん点がとれるのだろう

行動 2 たくさん得点できる作戦を選んで、ゲーム①を行う。[協]【えらボード】

セカンドリーグまでの経験を基に、たくさん得点できる作戦をチームで話し合いながら選ぶ時間を設定した。ゲーム①では、データや動画を集めながらゲームを行うことで、より得点につながる作戦を選べるようにした。

たくさん得点できる作戦はどれかをチームで話し合いながら選ぶようになる姿が見られた。

セカンドリーグでコートのにぎりぎりをねらったら相手がとりにくそうだったよ。



行動 3 たくさん得点できる作戦を選び直して、ゲーム②を行う。[協]【えらボード】

チームで選んだ作戦やゲーム①のボールの落下位置のデータから、たくさん得点できる場所を探し出し、ゲーム②で扱う作戦を選び直してえらボードに記せるようにした。

ゲーム②では、えらボードに記した作戦が実行できているかどうかを兄弟チームで動画を撮ったり、落下位置のデータを集めたりしながら確かめて、ゲーム中に友達同士の有効な声掛けができるようにした。



コートのにぎりぎりをねらって打てよう。このゲームで一番決まっているアタックコースだよ。

アタックを打つ人が打ちやすいように、トスを上げる人が前にも出ないで、トスの位置も大事だったよ。

【価値付け】たくさん得点できるようになったことを想起させ、「たくさん得点できる作戦を選んで、声を掛け合うことが得点アップにつながったね」と称賛した。

振り返り 4 本時の学習を振り返る。[自]【チームカアップ会議】

チームカアップカードを書く前に、友達が今日できていたことを伝え合う時間を設けた。自分のよさを再度認識したり、自分が気付いていない頑張りにも気付けるようにしたりして、「自分を信じる力」を発揮しながら次に頑張りたいことが書けるようにした。

〇〇さんは、チームのために作戦を選ぶことを頑張ってくれていたね。

本当だ。私達が選んだ作戦でチームのみんががたくさん点を決めているね。

【価値付け】「こんなにたくさん友達の頑張りを見付けることができたから、チーム力もアップしたんだね」と称賛した。



考察 (○：成果, ●：課題)

- コートに数字を記したナンバーコートにすることで、自分たちがコートどこにいるのかやボールをどこに打ったのかを把握でき、作戦が成功しているかどうか声掛けしやすくなった。
- 作戦を選び直す際には、子供たちが記録した得点したときのアタックコースが分かるように矢印で記したデータは有効に活用することができた。
- 撮影した動画をすぐに話し合いの場で用いることが難しかった。教師が次時に向けて必要な情報を焦点化し加工した動画を用いる方が有効であった。



【ナンバーコート】

